



平成27年11月11日

各 位

上場会社名 井関農機株式会社
 代表者名 代表取締役 木村 典之
 (コード番号 6310)
 問合先責任者 IR・広報室長 鈴木 文利
 (Tel 03-5604-7709)

繰延税金資産の一部取崩し、平成27年12月期第2四半期累計期間連結業績予想と実績との差異の発生ならびに平成27年12月期通期連結業績予想の修正および配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成27年12月期第2四半期決算において、繰延税金資産の一部取崩しを行いました。また、平成27年5月14日に公表しました平成27年12月期第2四半期累計期間の連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので下記のとおりお知らせいたします。なお、最近の業績の動向等を踏まえ、平成27年5月14日に公表しました平成27年12月期通期連結業績予想の修正および配当予想の修正をいたしますので、併せてお知らせいたします。

記

1. 繰延税金資産の取崩しについて

当社は、当期および今後の業績の見通し等を踏まえ、繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討を行った結果、その一部を取崩すこととし法人税等調整額を1,438百万円計上いたしました。

2. 平成27年12月期第2四半期累計期間連結業績予想と実績との差異
 (平成27年4月1日～平成27年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	78,000	1,800	1,700	900	3.98
実績値 (B)	77,576	885	1,269	△717	△3.18
増減額 (B-A)	△424	△915	△431	△1,617	
増減率 (%)	△0.5	△50.8	△25.4	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成27年3月期第2四半期)	82,450	1,048	1,485	1,341	5.84

【差異の発生理由】

第2四半期累計期間の連結業績予想と実績との差異につきましては、

- ・売上高は、予想比4億円減収の776億円となりました。

国内売上高は、春需要期における国内農機製品の販売が本格回復には至らず農機製品全体で22億円の減収。国内売上高全体で30億円減収の615億円。

海外売上高は、北米市場は新規投入したエコノミートラクタの出荷が好調なことなどにより11億円増収。欧州市場では需要が堅調に推移し13億円の増収。その他アジアは、インドネシアおよびタイ向けの出荷増等で5億円の増収。これらにより海外売上高全体で26億円増収の161億円となりました。

- ・利益面においては、営業利益は、経費では通期で26億円圧縮の計画に対して、連結区分変更による影響を除き18億円と着実に推移しているものの、国内農機製品の販売減少（4 - 9月）による粗利益の減少等により9億円減益。経常利益は、為替差益の計上等があったものの、営業利益の減少により4億円の減益。
四半期純利益は、税効果会計による繰延税金資産取崩し14億円の発生などにより、16億円減益となりました。

3. 平成27年12月期通期連結業績予想数値の修正 (平成27年4月1日～平成27年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	152,000	3,900	3,700	2,100	9.30
今回修正予想 (B)	148,500	1,000	700	△1,800	△7.97
増減額 (B-A)	△3,500	△2,900	△3,000	△3,900	
増減率 (%)	△2.3	△74.4	△81.1	—	
(ご参考)前期実績 (平成27年3月期)	157,417	△535	499	△319	△1.40

(注) 当社は、平成27年度より決算期を3月31日から12月31日に変更しております。経過期間となる平成27年12月期は、3月決算子会社につきましては、平成27年4月1日から平成27年12月31日の9ヶ月間を連結対象期間、12月決算子会社につきましては、従来通り、平成27年1月1日から平成27年12月31日の12ヶ月間を連結対象期間としております。

【修正の理由】

通期連結業績予想数値の修正につきましては、前回発表（平成27年5月14日）の業績予想に対し、第2四半期累計期間の連結業績実績および最近の受注状況や為替動向等を踏まえ、売上高および各利益について減額修正いたしました。

- ・国内売上高は、米価が持ち直しつつあるものの、4月以降は回復傾向ながら本格的な回復には至らなかったことから、通期では前回予想に対し59億円減収の1,256億円を見込んでおります。

なお、国内売上高のうち、農機売上についてはアグリシードリース事業の申し込みが7月に実施され、採択が10月以降になったことから、8-9月の売上が前年並みに落ち込みました。採択が決定された10月には前年比22%アップと増加しており、11-12月も好調に推移するものと見込んでおります。

海外売上高は、北米、欧州市場が堅調に推移していることに加え、新たに投入した戦略商品の効果、東南アジア等重点地域の販売増加等により、前回予想に対し24億円増収の229億円を見込んでおります。

- ・利益面では、営業利益では、国内農機製品の販売減少に伴う粗利益の減少や商品構成の変化等による採算性の悪化等により前回予想に対し29億円の減益を見込んでおります。各利益においては、営業利益の減益見込みに伴い前回予想から修正しております。尚、通期の想定為替レートは、対 1米ドル=120円（115円から変更）、対 1ユーロ=133円（130円から変更）としております。

4. 期末配当予想の修正

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期 末	合 計
前回発表予想 (平成27年5月14日)	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 3.00	円 銭 3.00
今回修正予想	—	—	—	1.50	1.50
当期実績	—	—	—		
(参考)前期実績 (平成27年3月期)	—	—	—	3.00	3.00

【配当予想修正の理由】

当社は、配当を最重要政策の一つと認識しており、連結業績のみならずグループの財務体質や今後の事業展開、経営環境の変化などを総合的に勘案し、継続した配当の維持、向上を基本方針としております。

平成27年5月14日公表の配当予想で、1株当たり3円としておりました当期の期末配当予想について、当期純損失の発生予想を勘案し、1株当たり1.5円とさせていただくことといたしました。

(注)上記の業績予想は、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以上